

introduction

腰椎分離症は、成長期のアスリートに多く発生し、日常診療でもしばしば遭遇する疾患である。しかしながら、腰椎分離症の病態・診断・治療については、いまだに解明されていない点が少ない。一方では、最近の診断技術や治療法の進歩により、その診療・治療体系が徐々に整備されつつある。そこで今回は、腰椎分離症の診断・治療に関する最近の研究成果を収集して整理することを目的とし、本特集号を企画するに到った。

病態については疲労骨折として解釈されることが多い。今回は、どのような運動・スポーツで生じやすいか、特にエリートスポーツ選手における発生機序はどのように説明されるか、素因との関連はどうか、疫学的なデータはどのようにまとめられるかなどの情報の整理を進めた。

臨床的な事項については、症状の発現と経過、分離部の形態的变化、偽関節に移行する時期、片側分離と両側分離での症状の相違などに焦点を当てた。特に、成長期の分離症の特徴、初期診断のポイントについての情報を集めた。

画像診断については、単純 X 線・CT での診断時期、MRI での骨髄浮腫所見、鑑別診断についての情報の整理を行った。特に MRI での定量評価についての研究成果の収集と整理を行った。

保存治療については、装具療法の実際、片側分離と両側分離での治療法の相違、スポーツ活動の制限期間、スポーツ復帰に際しての注意点などの情報を整理した。また、新鮮腰椎分離症に対する早期リハビリテーションの有効性、実際の運動療法のノウハウについても情報提供を依頼した。

手術治療では、終末期腰椎分離症に対する smiley face rod 法をはじめとする分離部修復術に加え、低侵襲手術についても、術式適応、成績、手術のコツを含めて執筆を依頼した。

上述のように、本特集号では腰椎分離症の診断・治療についての最新の知識の整理を目的として編集を進めた。実際の現場で腰椎分離症の診療に携わっている先生方に執筆をお願いし、診断・治療のポイントについて具体的に記載していただいた。是非ご熟読いただき、読者の先生方の知識の整理・向上にお役立ていただければ幸甚である。

いちらは病院整形外科
筑波大学医学医療系整形外科
山崎正志